

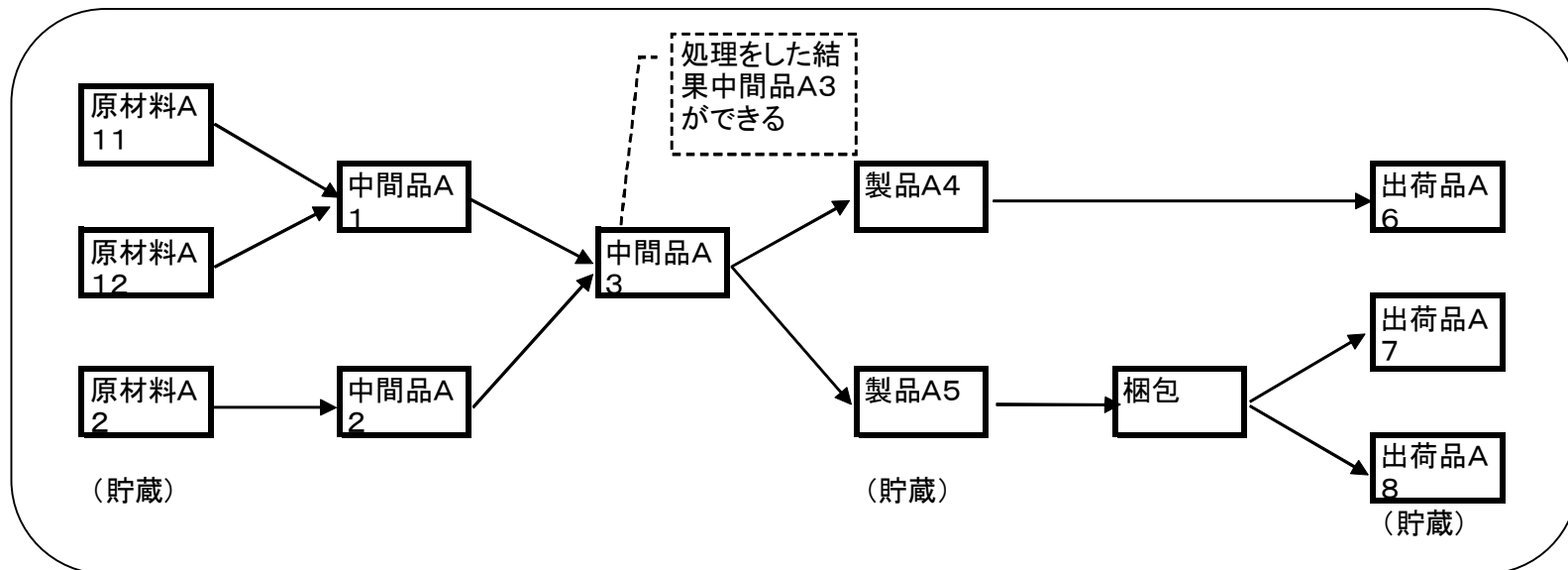
●データの作り方

本システムは、品目、品目フロー、リソース(設備・装置・作業員・工場など)、能力、接続関係、切替(段取り・清掃・点検など)時間、などのマスターデータ、ならびに品目の在庫量、入庫(入荷)予定、出庫(出荷)予定、受注、実績などのデータを読み込んで、機能選択パラメータに基づいたスケジュールを自動生成します。

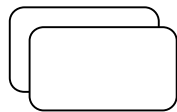
ここではデータの作り方を説明します。

以下のような品目ツリー(工程パターン)のデータを作る場合の例です。

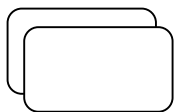
原材料と出荷品だけが違い、その他の中間品目の処理可能設備や能力が全く同じ場合でも、別に品目ツリーを作る必要があります。



このようなフローが複数(つまり複数の製品分)存在する



製品群X



製品群X

それらは種類や切替時間などからグループ化され製品群XA, 製品群XBのようになる。

これらの品目フローに対してそれを処理生産するリソース(設備・装置・作業員・工場)の情報やその能力、切替時間などを定義します。以下は個々のデータファイルの記述方法です。データが全体として整合性を持つように作成します。

例えば「品目」データ中の「製品群」という項目は、「品目群」データ中の「コード」に現れるものと対応します。

データ記入時は大文字/小文字、全角/半角は全て区別されます。

各データの作り方は「各データ説明.pdf」ならびに data/simple2/などの各サンプルデータファイル(csv)を参照ください。

各データの場所や必要・不要の設定は[data/data_src.dat]に記述します。